



△長尾さん（左）が描いた台紙にイラストを貼る参加者たち



△色とりどりの模様を描いた紙（下）を風の骨組みへ貼り付け

地元出身の芸術家が直接指導 伝承アートフェスティバル開催

「伝承アートフェスティバル」が歴史文化伝承館（旧水元小学校）で開催され、参加者がイラスト、デザイン、舞踊のコースに別れて講義を受けました。

9月19日（月）には、イラストレーターの長尾高徳さんによるイラスト講習会を開催。参加者は、バステルカラーの色鉛筆で、動物や果物などをカラフルに描いてから、ハサミで切り分け、長尾さんが事前に描いた鶴の舞橋の台紙に貼り付けました。

長尾さんは「かわいいものを描くと自然とイラストが楽しくなる。自分が楽しくなるイメージで絵を描いてほしい」と述べていました。

22日には、デザイナーの石澤暁夫さんによる津軽凧を使った現代アートのワークショップを開催。参加者は、大小さまざまな葉っぱに絵の具で色を付けて、和紙に思い思いの模様を描き、凧の骨組みに貼り付けていました。水元中央小学校6年の加賀谷絢香さんは「自分の好きなイメージで大きく目立つように模様を描きました」と楽しんでいました。

同日には、舞踊家の尾原家万次郎女さんによる津軽民舞踊教室も開催され、津軽囃子と津軽甚句（どだればち）の2曲の振り付けを行いました。

※「伝承アートフェスティバル」は平成28年度コミュニティ助成事業を活用して行われました。

相撲世界ジュニア選手権で 団体戦優勝に長内選手が貢献

モンゴルで7月に開催された世界ジュニア相撲選手権の団体戦で、日本代表チームの一員として優勝に貢献した長内孝樹さん（五所川原農林高校3年・横范）が9月1日（木）、相川町長に優勝を報告しました。

長内さんは、175cm、108kgと相撲選手としては小柄ながらも強い背筋力が持ち味。大会には日本代表チームの中堅として出場し、決勝のエジプト戦では、長内さんが寄り倒しで破り、2対1で優勝しました。

報告会には、同校の山口章校長、高橋道尊相撲部顧問が同席。長内さんは「初めての世界戦で不安もあったが、決勝では思い切り戦えた。今回の経験は自分にとってプラスになったので、大学相撲でも世界大会に出れるように頑張りたい」と今後の抱負を述べました。

関取を目標に大相撲武蔵川部屋入門

大相撲武蔵川部屋（武蔵川親方（元横綱武蔵丸））への入門が決まった上原昌さん（桜町）が8月23日（火）、相川町長に入門を報告しました。

上原さんは181cm、150kgで得意技は小手投げ。9月2日（金）には、大相撲秋場所（11日初日・両国国技館）の新弟子検査が行われ、身長167cm、体重67kg以上の体格基準を満たし、合格となりました。

上原さんは「関取昇進を目標に頑張るので、応援をお願いします」と気合いを込めていました。



△（右から2人目より）山口校長、長内選手、高橋顧問



△武蔵川部屋への入門を町長に報告した上原さん（右）